

大阪府における 消防広域化等の取り組み

第3回「消防力の維持・強化のための消防体制の構築に関する検討会」

大阪府危機管理室

大阪府消防広域化 推進計画

H20年3月 大阪府消防広域化推進計画 策定

H23年6月 改定

H31年3月 再策定

府内消防本部の将来像（1ブロック）

おおむね**10年後**までに
広域化すべき**組合せ（8ブロック）**

推進期限（令和6年4月1日）まで
に広域化すべき**組合せ（重点地域の指定）**

連携・協力対象市町村
指令台の共同運用等を推進



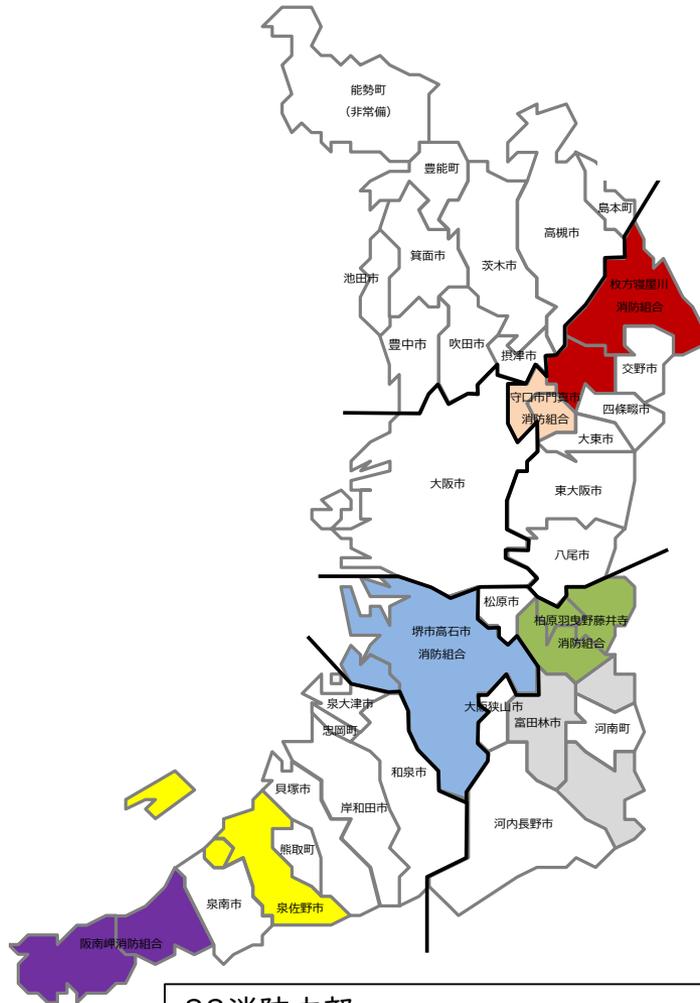
【推進計画の策定以降の実績】

消防広域化:6件

連携・協力:6件(指令台4件、はしご車2件)

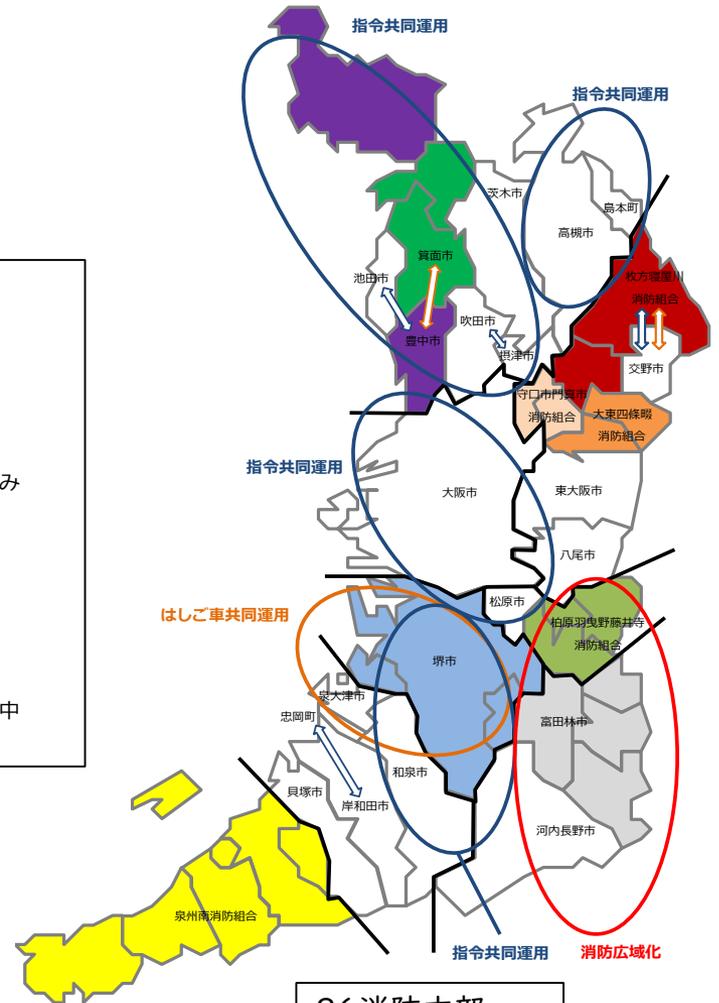
1.大阪府の消防の広域化及び連携・協力の現状

<H20.3 (推進計画策定時)>



33消防本部
小規模本部は15(非常備の能勢町含む)

<R6.3>



26消防本部
小規模本部は6

<凡例>

- 色付き地域
広域化実施済み
- ⇔ 指令台共同運用実施済み
- ⇔ はしご車共同運用実施済み
- 広域化の協議中
- 指令台共同運用の協議中
- はしご車共同運用の協議中

1. 広域化等の現状 地勢上の観点から

- 臨海部を除く三方が山に囲まれ、2つの河川で府域を3つに分割

Aブロック

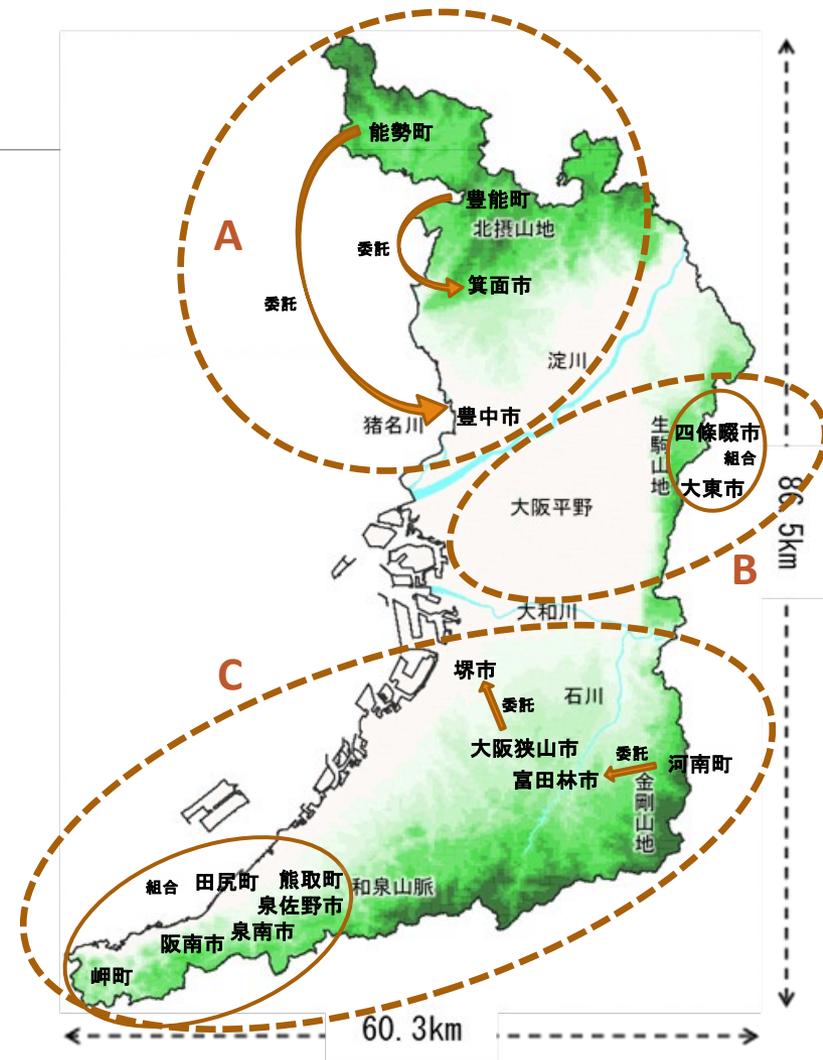
- ✓ 豊中市(能勢町から事務委託)
- ✓ 箕面市(豊能町から事務委託)
- ✓ 豊中市・池田市(指令台共同運用)
- ✓ 吹田市・摂津市(指令台共同運用)
- ✓ 豊中市・箕面市(はしご車共同運用)

Bブロック

- ✓ 大東四條畷消防組合(一部事務組合)
- ✓ 枚方寝屋川消防組合・交野市(指令台共同運用)
- ✓ 枚方寝屋川消防組合・交野市(はしご車共同運用)

C

- ✓ 堺市(大阪狭山市から事務委託)
- ✓ 富田林市(河南町から事務委託)
- ✓ 泉州南消防組合(一部事務組合)
- ✓ 岸和田市・忠岡町(指令台共同運用)



出典:「国土数値情報(国土交通省)」

1. 広域化等の現状 府下消防長会のブロック割

- 府域を4ブロックに分割、研修等を通じて緊密に連携

北ブロック

- ✓ 豊中市(能勢町から事務委託)
- ✓ 箕面市(豊能町から事務委託)
- ✓ 豊中市・池田市(指令台共同運用)
- ✓ 吹田市・摂津市(指令台共同運用)
- ✓ 豊中市・箕面市(はしご車共同運用)

東ブロック

- ✓ 大東四條畷消防組合(広域化)
- ✓ 枚方寝屋川消防組合・交野市(指令台共同運用)
- ✓ 枚方寝屋川消防組合・交野市(はしご車共同運用)

中ブロック

- ✓ 富田林市(河南町から事務委託)

南ブロック

- ✓ 堺市(大阪狭山市から事務委託)
- ✓ 泉州南消防組合(広域化)
- ✓ 岸和田市・忠岡町(指令台共同運用)



1. 広域化等の現状 道路網①

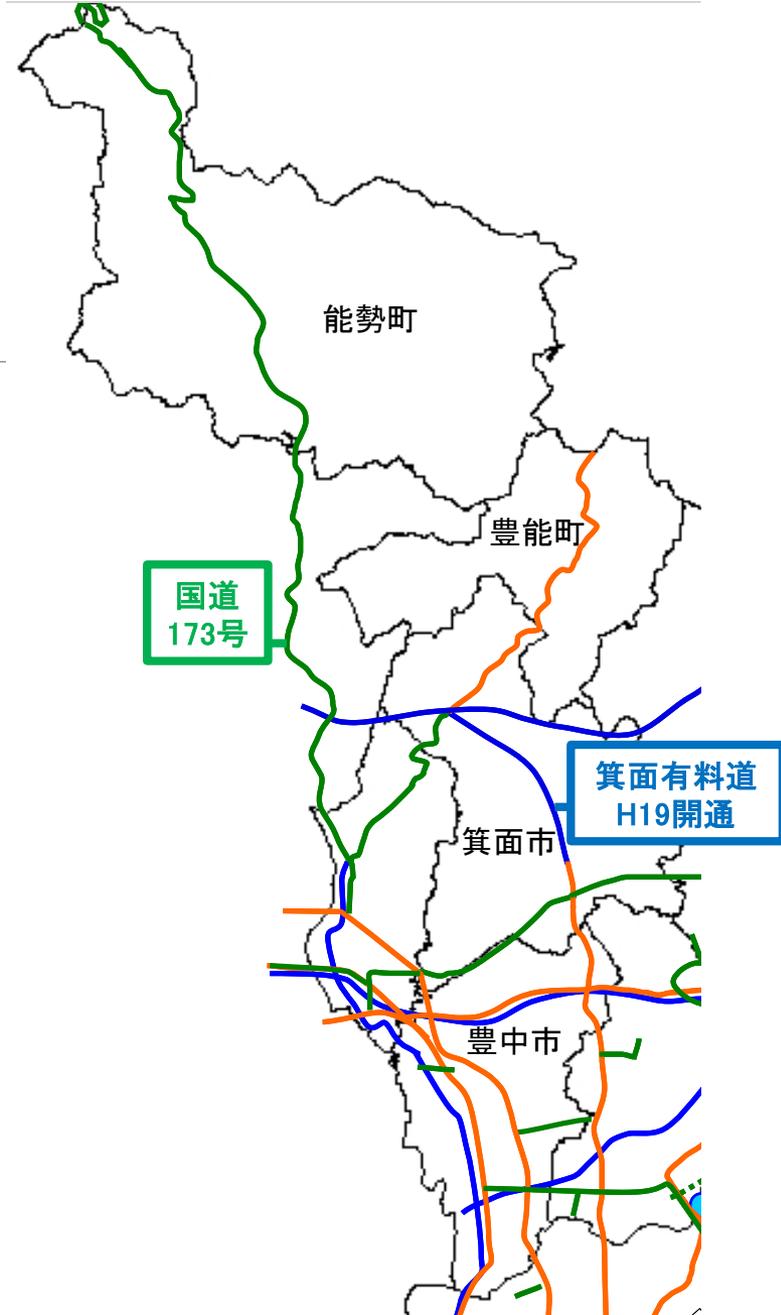
- 阪神高速道路が各方面に放射状に伸び、新名神高速道路・名神高速道路・中国自動車道路が府北部を概ね東西に横断
- 近畿自動車道が阪和自動車道と、阪和自動車道が南阪奈有料道路と、阪神高速道路が西名阪自動車道と直結
- 一般道では国道1号、2号、176号などが各方面を結ぶ一方、府道2号(中央環状線)・国道170号(外環状線)といった道路が環状に位置
- これらにより府内一円の道路ネットワークが充実している。



1. 広域化等の現状 道路網②

● 広域化実現地域の主な交通網（例）

- ✓ 豊中市と能勢町
国道173号線
➡ 飛び地での広域化
- ✓ 箕面市と豊能町
箕面有料道路
➡ 市町のアクセスが容易に



1. 広域化等の現状 指令センターの更新時期

	国の動き	府の広域化等の動き
H15	電波法関係審査基準を改正、 H28.5.31までに無線をデジタル移行することとなった	
H26~28		無線のデジタル化対応に併せて <u>指令台更新が集中</u> ※更新10件中、広域化3件、共同運用3件が実現
H30~R2	推進期限をR6.4.1に延長 緊防債をR7年度迄に延長	(使用期間は概ね10年)
R6頃	(取組を後押し)	<u>更新を予定する本部が多い</u>

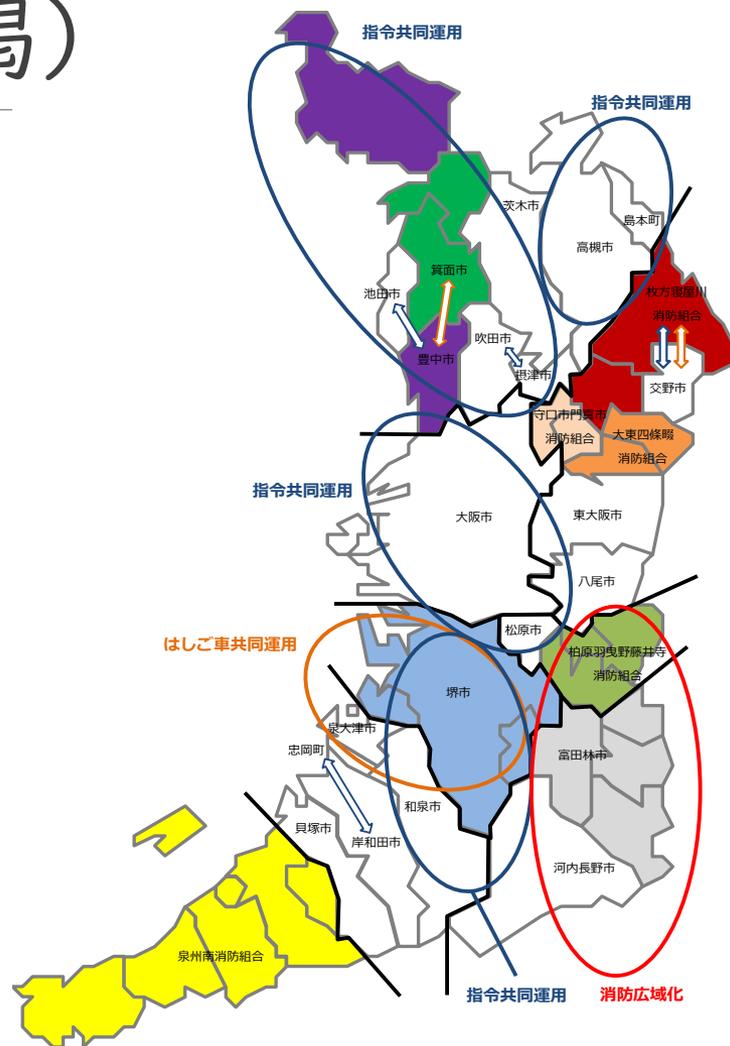
1. 広域化等の現状（再掲）

● 推進計画策定以降の実績

- ✓ 消防の広域化 6件
- ✓ 指令台の共同運用 4件
- ✓ はしご車の共同運用 2件

● 今後の予定

- ✓ 消防の広域化 1件
- ✓ 指令台の共同運用 4件
- ✓ はしご車の共同運用 1件



1.広域化等の現状（まとめ）

- 地勢の一致
- 消防本部の緊密な連携
- 交通の利便性
- 指令台更新時期の一致
- etc…



これらの現状が相まって広域化や
連携協力の取組みが進んでいる。

2.次のステージに向けて

<広域化が進みにくい要因>

- 現場増員などの効果が見込めない
- 広域化により財政負担が増大
- 広域化により災害対応力が低下
- 給与・手当等の統一が困難
- 意見や方針の不一致
- 中心となる団体が不在（構成団体が
多い）
- その他



広域化前後の比較に留まらず、
中長期的視点での検討が必要

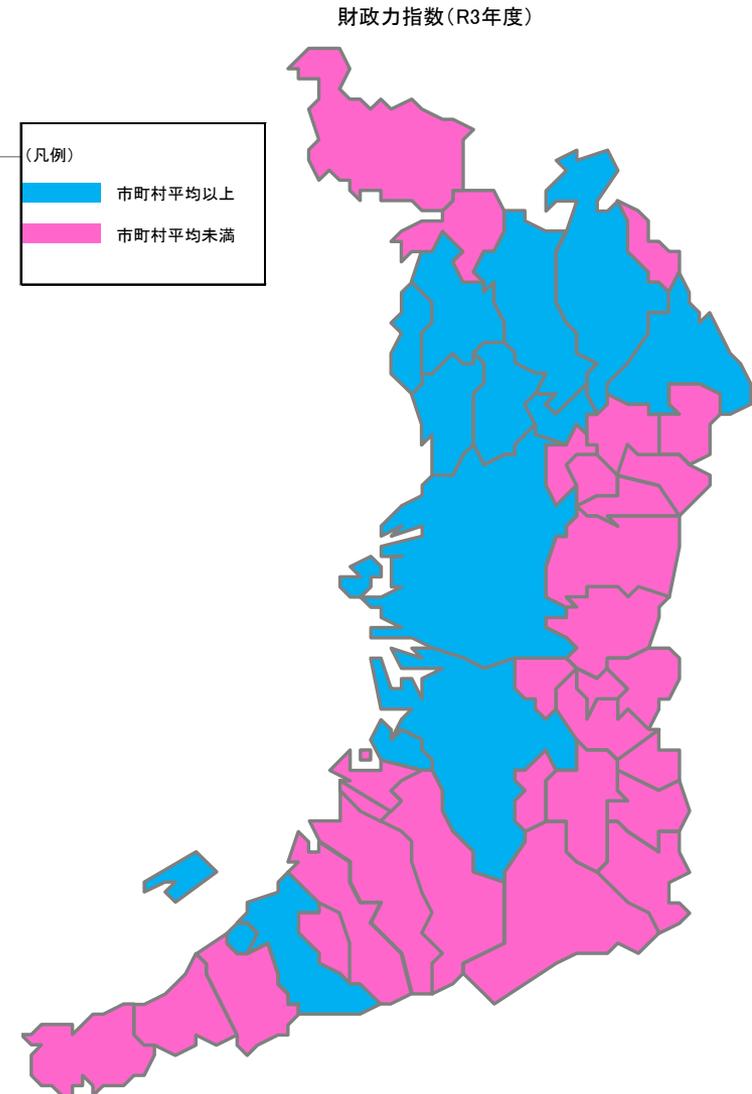
多岐にわたる検討事項について
関係者間での合意形成が必要

2.次のステージに向けて 気運の醸成①

- 財政力指数について、府内市町村でばらつきがある

(財政力指数)

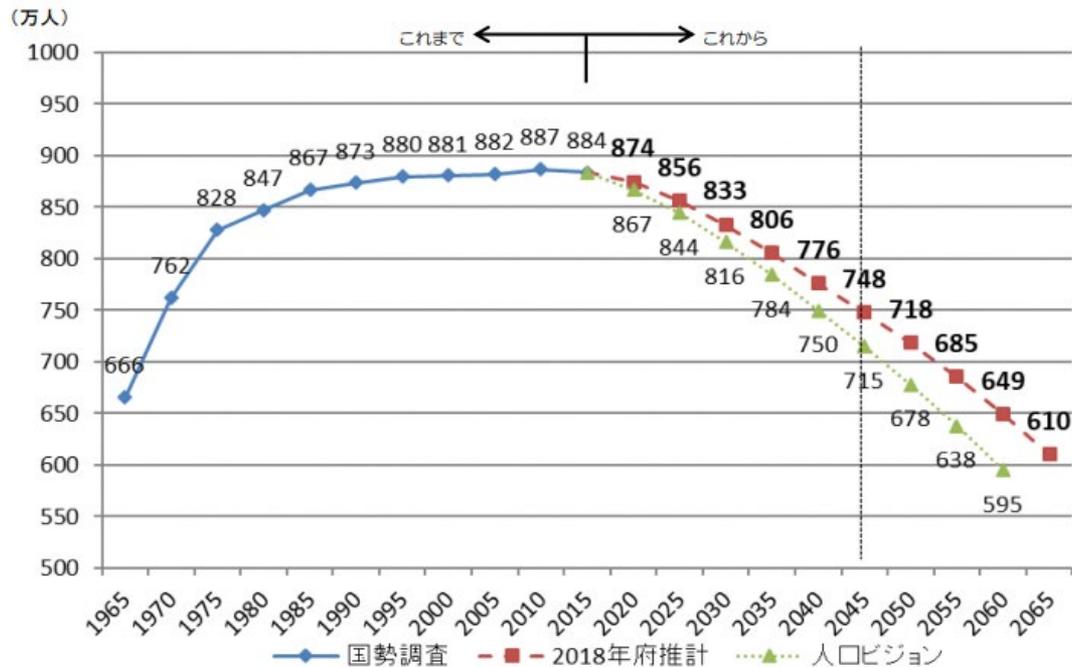
地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、財源に余裕があるといえる。



2.次のステージに向けて 気運の醸成②

- 人口減少の一方、消防需要の増加で住民一人当たりの消防費が増大

(大阪府の人口推計)

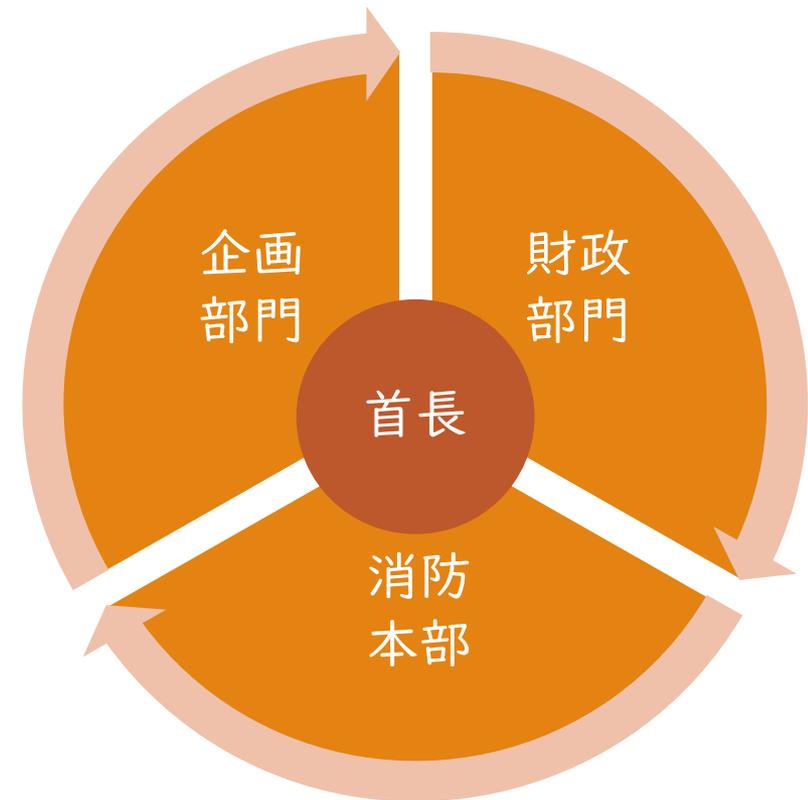


出典：2015年までは総務省「国勢調査」。2020年以降は「大阪府人口ビジョン（2016年3月）」及び「大阪府の将来推計人口について（2018年8月）」における大阪府の人口推計（ケース2）に基づく大阪府政策企画部推計。

2.次のステージに向けて 協議の場のコーディネート

- 消防体制の維持確保は市町村の重要課題
- オール市町村で議論する必要がある
- マネジメントの観点から協議の場をコーディネート

<協議の場のイメージ>



3. 広域化や連携協力に繋がった事例

